

## 学校における「本のまち 明石」の取組について

本市においては、今後、市制施行 100 周年を契機に、次なる 100 年を見据えて、「SDGs 未来安心都市・明石」を掲げ、「いつまでも」「すべての人に」「やさしい」まちづくりに取り組むこととしています。

SDGs は国連で採択された持続可能な 17 の開発目標であり、第 4 番目の目標として、「質の高い教育をみんなに」が掲げられています。

また、先般、読書バリアフリー法が制定され、「障害の有無にかかわらず、すべての国民が等しく読書を通じて、文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現」を目指すこととされています。

これらは、本市が重点的に進める「本のまちづくり」や「やさしいまちづくり」の方向性と一致するものです。

については、まちの将来を担う子ども達の健全な育成を図るため、「質の高い教育」、「本のまちづくり」、「やさしいまちづくり」に向けた取組の一環として学校における読書活動を一層推進することとします。

### 1 ビブリオバトルの実施

Biblio（本を意味する接頭語）+battle（戦い）は、参加者同士で本を紹介しあい、もっとも読みたいと思う本を投票で決める取り組みです。この取組は学力を支える読解力や、他者の考えを理解する力、自分の考えを伝える表現力が養われ、主体的・対話的で深い学びにつながる活動と考えられることから、市内の学校に取り組みを拡げていきたいと考えています。

#### (1) 導入における基本的な考え方

- ・継続的な活動とするため、国語科の年間指導計画の中に位置づける。
- ・中学校 3 年生の国語の教科書でビブリオバトルが取り上げられたことや、平成 27～28 年度に研究指定を受けた魚住東中学校でビブリオバトルを実施した実績があることから、今年度はまず中学校から重点的に取り組む。

#### (2) 取組状況

##### ①昨年度の取組

- ・校長会（小中）で実施に向けた教育委員会の方針説明
- ・国語科担当者会（小中）で既実施校での取組事例に基づき進め方を検討
- ・江井島中学校で実施
- ・王子小学校で実施

##### ②今年度の取組（予定含む）

- ・中学校長会で再度教育委員会の方針を説明するとともに、小中学校図書館教育担当者会でビブリオバトルの進め方と学校図書館の活用方法について研修を実施
- ・学校司書に対し学校でのビブリオバトルの進め方とブックトーク（一つのテーマで複数の本を紹介するもの）について研修を実施
- ・教員初任者に対しビブリオバトルの体験研修を実施する予定

《以下今年度各校の実施予定等》

—中学校（6月18日現在）—

【各校での取組】

- ・3年生を対象に実施予定： 2校（錦城、大蔵 2校とも9月実施予定）
- ・全学年を対象に実施予定： 2校（江井島、魚住東 2校とも9月実施予定）
- ・その他の学校については、現在実施方法等を検討中

【全校をあげた取組】

- ・中学校合同図書委員会で各校の図書委員長を対象として夏休み期間中に実施予定

—小学校（6月18日現在）—

- ・特定の学年に実施予定： 1校
- ・実施方法等検討中： 5校

③今後の取組

- ・今後全小・中学校での実施を目指し、取り組みを進めます。また、取り組みの普及にあわせ、希望者を募った全市大会などの実施を検討します。

<2019年度> 全中学校での実施を目指す。

<2020年度> 全小学校での実施を目指す。

## 2 学校司書の活動

学校司書を、今年度より全小・中学校に配置し、司書教諭の指示のもと、図書の選書・登録・廃棄、寄贈図書の受入、図書室の表示・展示、読み聞かせ等読書意欲を高める取組、本を活用した授業の支援、学級文庫への図書資料の提供、図書委員会への指導支援などを実施しています。

### (1) 配置校での取組例（次ページ参照）

Before	After
①朝読に同じ本ばかり読んでいる生徒がいる。	⇒図書室の本を活用してもらうため、朝読の時間に図書室の本の持ち込みを実施。あらかじめ、本を選んでクラス毎にセットして持ち込み
②入学したばかりで、図書室での本の探し方を知らない児童・生徒がいた。	⇒年度初めのオリエンテーションの際、学校司書が新1年生に図書室の使い方を説明。 (図書室パンフレットを作成し、体育館で全1年生に配付・説明した事例もあり)
③図書室にあまり行かない生徒がいた。	⇒学校司書が図書室の本をセットし、各学級に配送する取組を実施。教室に一定期間設置後、他学級に巡回させる取組も図書委員と共同で実施。
④隙間時間に児童に読み聞かせをしたいと考えた教師がいた。	⇒短い時間でも読める本を、学校司書が選書し、教師に提供
⑤中学校では昼休み以外の図書室の利用が少なかった。	⇒司書配置後、授業での図書室の利用が進むとともに、これまでほとんど開館されていなかった放課後の利用が進んだ。

◇図書室での展示や図書の紹介（興味をそそるための工夫）

新着本を展示し生徒に紹介



ノーベル賞、IPS 細胞等、ニュースで話題の関連図書を入口付近に展示



新着本の帯を図書室前に展示



◇授業での図書室の活用支援

授業前に、関連図書を学校司書が準備



◇読み聞かせなどの活動



◇本の相談対応



◇学級への図書の貸出



◇そのほかにも

- ・選書や図書の整理、データ登録等の事務作業はもちろんのこと、図書室だよりを自ら発行し児童生徒が図書室に興味をもつための工夫や、児童・生徒からリクエストを受けた図書を教室に配送するなど幅広い活動

—参考（司書配置校数とその貸出冊数）—

	配置校数等	配置校での合計貸出冊数
2017年度	8校( 3名)	88,390冊〔前年度比+26% (前年度 70,225冊)〕
2018年度	24校( 8名)	256,089冊〔前年度比+19% (前年度 215,324冊)〕
2019年度	全41校(14名)	

### 3 その他

#### (1) 市立図書館と学校図書館の連携について

市立図書館の司書が、学校で必要とする図書を選書し、配送するなどの取組を実施。  
また、学校園等の希望に応じ、市立図書館内やバックヤードの見学、カウンター体験なども実施。2018年度の市内学校園からの見学参加者は延べ33組2,145人

#### (2) 子どもに伝えたい「本」感動大賞について

「読書感想画」やオリジナルの「本の帯」を学校園を通じ募集する標記の事業を、2013年度より毎年実施。年々応募者が増え、昨年度は合計3,347件に達した。

	本の帯（小学生以上）	一枚の絵（4・5歳児）	計（点）
2013年度	719	324	1,043
2014年度	846	243	1,089
2015年度	1,474	753	2,227
2016年度	1,823	1,131	2,954
2017年度	1,853	1,313	3,166
2018年度	1,820	1,527	3,347

#### (3) 朝読について

「朝の読書」などの全校一斉読書活動は、児童・生徒の読書習慣の定着と、本に親しむ契機となることなどから本市でも多くの学校で実施している。

【2018年度状況】		小学校	中学校	
実施校数		18校	13校	
内訳	回数	週1回	10校	0校
		週2回	5校	0校
		週3回	2校	0校
		週4回	0校	0校
		週5回	1校	13校
	時間	5分	1校	1校
		10分	10校	12校
		15分	6校	0校
		20分	1校	0校

#### (4) 中学校図書館の昼休み開館について

2018年度の調査では、13校中12校が開館。残り1校（朝霧中）も2019年6月から開館。

あわせて、給食実施により、昼休みの開館が難しい学校があったことや、昼休みに来館する時間が取れない生徒もいたことから、学級文庫を充実し、配膳時間などに本を手にとることができる取り組みを実施。（現在も継続中）

#### (5) 「本のまち大使」上田岳弘氏による子ども達を対象としたイベント等の検討

第160回芥川賞作家であり、「本のまち大使」に任命された上田岳弘氏による子ども達を対象としたイベント等の企画・検討。

(6) 読書バリアフリーへの対応

現在多くの特別支援学級では、身近に本を手にとることができるよう、学級内に本棚を設置している。また、弱視学級の児童は拡大教科書による対応を行っている。

今後、障害の有無にかかわらず、読書ができるよう、児童、生徒の状況に応じた対応を進めていく。

【参考】学校図書館での貸出冊数の推移

	小学校（養護含む）	中学校（明商含む）	計
2016年度	346,053冊	32,696冊	378,749冊
2017年度	377,533冊	40,446冊	417,979冊
2018年度	429,613冊	52,224冊	481,837冊